
言語研究センター共同研究

音響機器等を利用した 英語音声教育のための予備的調査

小松雅彦／松村文芳

近年、技術的な発達によって、さまざまな音声分析のための機器が従来に比べて廉価で利用できるようになってきている。しかしながら、それらは、おもに研究者が研究をするために用いられており、音声教育への応用は限られている。一方、英語教育においては、音声教育の重要性は認識されているが、効果的な教育ツールは十分に開発されているとは言い難い状況にある。

本研究プロジェクトは、音響機器等を利用した英語音声教育教材を作成するための予備的調査を行うことを目的としている。現在利用可能な技術が、英語の音声教育のための教材開発に利用可能かどうかを調べる。

音声教育のための技術・知見には、個別言語の音声に特化したものもあれば、多くの言語の音声教育全般に関わるものもある。本プロジェクトで

は、英語音声学を担当する者と、中国語の音声教育システムに関する知見のある者が、協同して研究・調査を行う。他言語についての知見を利用して英語音声教育に寄与すると同時に、本研究の成果もまた他言語の教育にも役立つものとなることが期待される。

初年度である本年度は、次の項目を中心に作業を行っている。

(1) 調音位置の可視化を行うと同時に、調音位置と音声信号の同期を取ることのできる Aurora Wave Speech Research System (アドバンス

トシステムズ株式会社)の操作性等を調査し、音声教育のための基礎的な教材作成ツールとしての有効性を検討している。

(2) ストリーミングサーバを利用した英語音声のディクテーションの演習システムのプロトタイプ作成のため、サーバ環境の整備やソフトウェア導入などを行っている。

(3) 中国語音声の波形を見ながら発音の練習をするCALLシステムを使用しながら、英語の音声教育との関連・応用を検討している。
